

各位

会社名 日東工器株式会社
代表者名 代表取締役社長 小形 明誠
(コード番号 6151 東証プライム)
問合せ責任者 取締役 常務執行役員 管理統轄 野口 浩臣
(TEL 03-3755-9970)

2026年3月期決算説明 質疑応答集

この質疑応答集は、2026年6月3日（水）に開催した2026年3月期決算説明会および機関投資家・アナリストとの1on1ミーティングでいただいた主なご質問をまとめたものです。なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

(ご参考) 決算サマリー

2026年3月期
決算概要

迅速流体継手とリニア駆動ポンプの売上増加により増収
新工場稼働に伴うコストおよび材料費の増加により減益
売上高 272億円 (前期比 +0.1%)
営業利益 11億円 (前期比 -49.5%)

2027年3月期
事業計画

製品価格改定、新分野向けの案件拡大により利益増加を見込む
売上高 291億円 (前期比 +7.0%)
営業利益 17億円 (前期比 +48.1%)

株主還元

26年3月期の年間配当金は40円
27年3月期の年間配当金は32円を予想

Q1

トピックとして紹介されたロボット対応製品はどこまで拡大されますか。
また、新たな用途として想定されているものはありますか。

A1

現在、ロボット搭載製品はハンドツールを中心に展開しております。また、加工対象物の大型化への対応および複雑な動作を可能とする制御技術について、Sierにも協力いただきながら進めております。人手不足の解消を背景にロボット搭載製品の需要が増加しているため、こうした需要を確実に取り込めるよう、営業活動の強化にも取り組んでまいります。

Q2 中東情勢の影響について教えてください。

A2 樹脂、ゴム、潤滑油、梱包資材など一部については、調達の先行きが見えにくいものも出てきています。ただし、現時点では、生産に大きな影響が出る状況には至っていません。特定の調達先や地域に依存しすぎないように、代替材料の検討や新たな購入先の探索、在庫の適正確保などを進め、リスク分散に取り組んでいます。また、27年3月期通期業績予想は、足元の市況が大きく悪化しない前提で策定しております。

Q3 2026年3月期の機械工具事業の営業利益が10億円減少している要因を教えてください。

A3 新工場の減価償却費増などの固定費増、工場移転に伴う生産停止による売上低下、販管費の増加等が主な要因です。

Q4 水素関連市場の動向はいかがですか。

A4 水素燃料電池車は現在、導入拡大の初期段階にあり、2030年代にかけて本格普及していくと見ています。特に、長距離走行や短時間充填といった特性が大型バスやトラックなど商用車に適しており、実際に当社の水素充填用の迅速流体継手の引き合いが増えています。立ち上がりは緩やかですが、中長期的な成長余地の大きい市場と認識しています。

以上

IRサイト



当社HPのIRサイトでは、株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。

<https://www.nitto-kohki.co.jp/ir/>

決算説明会動画配信



当社では、決算説明会の動画を配信公開しております。(2026年12月末迄)ぜひご覧ください。

<https://www.nitto-kohki.co.jp/ir/library/supplemental/>